

図書だより ライブラリーニュース  
**Library News**

平成 30 (2018) 年 11 月  
府中市立府中第八中学校  
図書室担当 栗谷千衣子

日暮れが早くなって部活後のみなさんが、下校する頃には、もうすっかり暗くなっています。そんな日の入り後の南の空に、火星が赤く輝いています。今年 7 月 31 日に最接近し、現在はだんだん遠ざかっているところですが、まだマイナス等級の明るさを維持しています。たまには、夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。図書室には宇宙や天体の本もたくさんあります。また、月末には新しい本が入る予定です。ぜひ図書室に来てください。

吹くからに秋の草木のしをるれば  
むべ山風をあらしといふらむ

ふんやのやすひで  
文屋康秀『百人一首』『古今集』

風が吹くとすぐに山の草木がしおれるのであるほど、山風を嵐というのだろう。

冬の到来を感じる晩秋の激しい風や荒涼とした景色を詠んだ歌です。

作者の文屋康秀は平安前期の歌人で、六歌仙の一人です。この和歌は山の風と書いて

「嵐」という読みと、「草木を荒らす風」と

という意味を掛けていて、さらに「山」と

「風」が「嵐」という漢字遊びもしています。

六歌仙：紀貫之が『古今和歌集』であげた平安時代初期の六人のすぐれた歌人。

ありわらのなりひら とうじょうへんじょう させんほうし  
在原業平、僧正遍照、喜撰法師  
おのこのころぬし  
大友黒主、文屋康秀、小野小町

**10月の図書室** (開館日数 20 日)

入館者数 1201 人(1 日平均 60 人)

|      | 男子  | 女子  | 合計  |
|------|-----|-----|-----|
| 1 年生 | 189 | 221 | 410 |
| 2 年生 | 289 | 349 | 638 |
| 3 年生 | 64  | 89  | 153 |

貸し出し冊数 647 冊

| 学年毎の上位クラス |        |        |
|-----------|--------|--------|
| 1-C 289   | 2-C 97 | 3-E 30 |
| 1-B 25    | 2-A 24 | 3-F 24 |
| 1-D 22    | 2-D 22 | 3-C 12 |

三者面談期間(12/3~7)は午前授業のため図書室は閉館します。

11月28日から30日まで、特別貸し出し ひとり5冊(本の旅人は8冊)

ただし、貸出期限が期限を過ぎた本がある場合は利用できません。

## 11月のこよみから 11月5日は津波防災の日

11月5日の津波防災の日です。東日本大震災での津波被害を受けて成立した「津波防災推進法」で定められました。この日が、津波防災の日となったのは、1854年のこの日に発生した安政南海地震の際に、豪商・浜口梧陵が津波の来襲を知らせるため稲束に火を放って住民を高台に避難させたという「稲むらの火」の故事にちなんでのことです。その浜口梧陵の伝記と地震や津波の解説をマンガとコラムで読める『津波から人びとを救った稲むらの火』（クニトシロウ作 文溪堂 289/ハ）をぜひ読んでください。

## 11月生まれの作家たち

|                |                   |                 |                     |
|----------------|-------------------|-----------------|---------------------|
| 1日 萩原朔太郎(1886) | 9日 カズオ・イングロ(1954) | 16日 佐藤多佳子(1962) | 28日 向田邦子(1929)      |
| 3日 山崎豊子(1924)  | 11日 養老孟司(1937)    | 17日 井上ひさし(1934) | 29日 C. S. ルイス(1898) |
| 3日 手塚治虫(1928)  | 11日 湯本香樹実(1959)   | 25日 吉本隆明(1924)  | 29日 沢木耕太郎(1947)     |
| 4日 泉鏡花(1873)   | 12日 エンデ(1929)     | 27日 岩合光昭(1950)  | 29日 金原瑞人(1954)      |
| 7日 カミュ(1913)   | 16日 まどみちお(1909)   | 28日 寺田寅彦(1878)  | 30日 モンゴメリ(1874)     |

### 物理学者で随筆家 寺田寅彦(1878~1935)

寺田寅彦は明治11(1878)年11月28日東京で生まれた。寅年の寅の日に生まれたので寅彦と名付けられた。父は元土佐藩士で明治政府の役人だった。8歳の時、父の退職で一家は高知に戻り、18歳まで過ごす。熊本第五高等学校に入学すると、そこで物理学の田丸卓郎先生と英語の夏目金之助(のちの夏目漱石)先生に出会い、終生この二人を師と仰いだ。22歳で東京帝国大学物理学科に入学。さらに大学院で実験物理学の研究をし、「尺八の物理学的研究」という論文で、理学博士となった。彼は当時の世界第一線の研究テーマにも業績を残しており、「ラウエ映画の実験方法およびその説明に関する研究」(エックス線を結晶にあてると、その曲がり具合から結晶内部の原子の配置を実験的に突き止めることができるという研究)で学士院恩賜賞を授与された。(ラウエはこの研究でノーベル賞を受賞)後に、地球物理学に興味を移し、理化学研究所や地震研究所に籍を置き、地震、火山、海洋、気象などの研究をもとに、自然災害の多い日本の防災のために数々の提言をした。文章として残っていないものの「天災は忘れた頃にやってくる」という名言は、彼の言葉と言われている。一方で、漱石に文学的才能を見出され、22歳の時に、正岡子規を紹介される。そして、子規が発行する『ホトトギス』に小品が掲載されるようになり、以後、物理学の研究と並行して吉村冬彦の名で数多くの随筆を書いた。それは、子規がとなえた物事をあきらまにまにとらえるという写生文の書き方を生かし、日常生活のことがらを科学的な目によって見直してみようとするもので、科学随筆という新しい分野を作った。昭和10(1935)年12月31日転移性骨腫瘍のため死去。夏目漱石の『吾輩は猫である』の水島寒月は、彼がモデルとされる。図書室にも寺田寅彦の随筆として『茶わんの湯』(板倉聖宣 選 国土者 408/テ)と『科学と科学者のほなし 寺田寅彦エッセイ集』(池内了 編 岩波書店 916/テ)があるので、ぜひどうぞ。

### お詫びと訂正

先月発行の「Library News」で10月生まれの作家として小林多喜二を紹介しましたが、小林多喜二の生年月日は1903年12月1日でした。10月13日はその日の旧暦にあたる日で、調べた資料ではそちらが使われており、そのまま紹介してしまいました。しかし、1903年はすでに太陽暦が採用されていますので、12月1日が誕生日となります。お詫びして訂正いたします。今後は、調べる際には、別資料にもきちんとはたらくように気を付けます。申し訳ありませんでした。



### 3年生・総合／進路 面接講座

3年生が11月1日、八王子実践高校の入試広報部の先生による面接講座を受けました。

3年生のみなさんは『面接ガイド』という本が配られ、面接や作文などの対策をしていると思いますが、1、2年生のみなさんはどうでしょう。まだ早い？でも少しずつ準備をしてはどうでしょう。急に「自分の長所は？」と聞かれてもなかなか難しいものです。図書室にも面接の本を所蔵しています。3年生もどうぞ利用してください。

『高校入試面接必勝ガイド』 高校入試問題研究会 編著 受験研究社

『面接官に好印象を与える 高校入試面接のオキテ 55』 安田浩幸 著 KADOKAWA

勉強や受験の本のコーナーにあります。



### 1年生・国語 「竹取物語」

9月号でも紹介しましたが、1年生は国語で古典文学に親しむ授業を受けました。その後、教科書に掲載されている『竹取物語』の授業でPOPを作成しました。優秀作品を図書室の日本の古典文学の棚に展示しています。とても素敵です。ぜひ、見に来てください。

きて！みて！よんで！！

### 2年生、11月29日、校外学習で都内巡り

『東京さんぽ図鑑』

スタジオワーク著 朝日新聞出版 291/ト

著者のスタジオワークとは、建築やデザインなどの専門家が集まったグループ。彼らは実際に町に出て、情報を集め、イラストを描いているそうです。建築や自然といったテーマ別に楽しむ散歩コースが、素敵なイラストと共に紹介されています。

『幸福トラベラー』

山本 幸久 著 ポプラ社 913/ヤ

中2で新聞部の小美濃春生は、「合格祈願パワースポット探訪」という特集記事の取材で上野公園に来ていた。そこで、行方彩夏という修学旅行生と出会う。そして、彼女に写真を撮って欲しいと頼まれ、ふたりで公園内を巡ることに…。読むと上野公園に詳しくなります。

11月23日は勤労感謝の日。働くということについて考えよう！

『いつかすべてが君の力になる』

梶 裕貴 著 河出書房新社 289/カ

声優の梶裕貴さんから夢に向かって頑張る若者へ贈られた応援メッセージが書かれた本。14歳で声優を目指したエピソードや下積み時代のことや仕事に対する熱い思いが語られています。また、声優の仕事をのぞいてみよう！という梶さんをモデルにした写真入りコラムも。

『警視庁生きものがかり』

福原 秀一郎 著 講談社 317/フ

著者は、希少動物専門の警察官。上司に「誰にも負けないという得意技を持って！」と言われたことをきっかけに、自分の好きな動物に関わる事件を捜査し始めます。取引が禁止されている動植物の密輸や不正取引を暴いていくその姿はカッコよく、敬服します。

『イラストノート No.46』

誠文堂新光社 726/イ

雑誌ですが、特集記事が「イラストレーターの働き方」とあり、イラストレーターを目指している人もいるのではと、特別に購入しました。本の表紙の絵で図書室でもお馴染みの中村佑介さんをはじめ、人気イラストレーター6人の仕事の仕方や思いが載っています。

『キリの理容室』

上野 歩 著 講談社 913/ウ

神野キリは、自分と父をおいて出て行った母への反発から、母と同じ理容師になり、繁盛する理髪店を営みたいと思っていた。理容学校を卒業し、国家試験に合格し、理容師となった彼女は、以前、母が働いていた店で理容師として第一歩を踏み出すことになった。そして…。理容師さんの仕事がよくわかる物語。

『プリティが多すぎる』

大崎 梢 著 文藝春秋 913/オ

文芸書の編集者になりたくて憧れの老舗出版社・千石社に入社した新見佳孝は、週刊誌の編集部で2年在籍後、初めての移動の内示を受けた。それは自分の希望とは違う女子中学生向けの月刊誌『ピピン』の編集部だった。これまでとは全く違う世界に絶望する佳孝は…。千石社シリーズ『クローバー・レイン』『スクープのたまご』もどうぞ

『つむじ風食堂と僕』

吉田 篤弘 著 筑摩書房 913/ヨ

主人公のリツ君は12歳。彼は、時々ひとりで、隣町のつむじ風食堂へ行く。ひとりで食堂に行くと大人たちに「君はどこの子だ」と訊かれるので、先まわりして「仕事は何ですか」と訊く。すると、皆、それぞれに“仕事”の話をしてくれる。少し哲学的で絵本のような物語。